

ノロウイルス検出状況

感染症発生動向調査における感染性胃腸炎の定点当たり報告数は、2024 年までは 11～3 月の冬場に最も多く、次いで 5～7 月に多い状況でした。2025 年は例年と推移が異なり、1 月に比べて 2～3 月にかけて報告数が多く、4 月に入ってから報告数が異例に多い状況が続いています（図 1）。

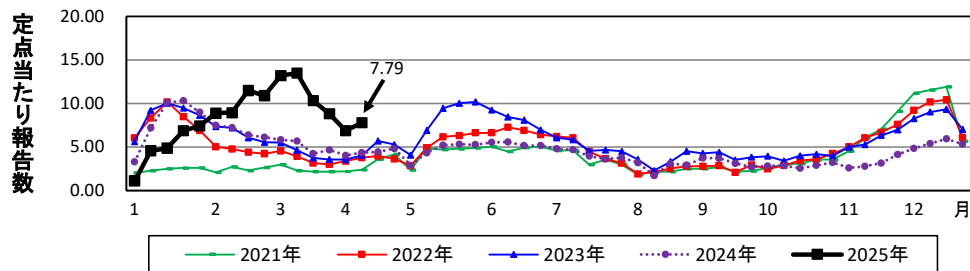


図 1 感染症発生動向調査における感染性胃腸炎の流行状況

埼玉県衛生研究所に搬入された感染性胃腸炎検体の病原体検出状況を見ると、2025 年 1～3 月に採取された 10 検体のうち、6 検体からノロウイルス G II、3 検体からアストロウイルス、1 検体からアデノウイルスが検出されました。ノロウイルス G II が検出された 6 検体の遺伝子型の内訳は G II.4 が 3 件、G II.3 が 1 件、G II.17 が 1 件でした（1 件は解析中）（4 月 10 日現在）。

また、2020 年 9 月～2025 年 3 月に食中毒が疑われ埼玉県衛生研究所の検査でノロウイルス（G II）が検出され、遺伝子型が決定できた事例について、遺伝子型別の推移を図 2 に示しました。2024 年 1 月以降、ノロウイルス G II が検出される事例が増え、2025 年はさらに多く、時期も 2 月以降と遅くなっていました。2024 年は 1～3 月にかけて G II.4（濃緑色）の検出が最も多い状況でしたが、2025 年は G II.17（ピンク色）が大半を占めていました。

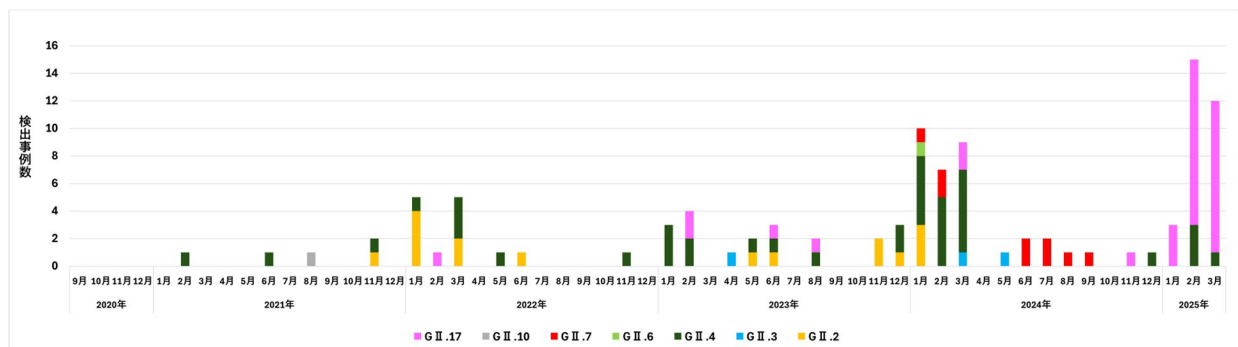


図 2 食中毒調査におけるノロウイルス G II の遺伝子型別の推移（事例数）

ノロウイルスは多くの遺伝子型が存在し、過去にノロウイルスに罹患した人でも再びノロウイルスによって感染性胃腸炎を発症することがあります。また、感染しても症状がなく、知らないうちに周りに感染を広げてしまう場合もあります。予防には、手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要です。

小児科病原体定点医療機関の先生方には引き続き検体採取へのご協力をお願いします。

参考：食中毒について <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/foodbone.html>

ノロウイルスによる食中毒 <https://www.pref.saitama.lg.jp/b0714/winterfbd.html>